



神奈川学園 (間伐体験)

手順について説明し実際にノコギリを使って木を伐り倒す実演を見た後、間伐体験を行いました。生徒達は、最初はノコギリの取り扱いに苦労していましたが、協力しながら作業を進めて約二時間かけて間伐作業に汗を流し満足そうな表情でした。

今回のフィールドワークを通して、自然の厳しさや、実際に自分たちで木を伐採する体験を通して、林業の大変さを感じる一方で、豊かな自然の中で様々な活動を行い、有意義な一日が過ごせたのではないかと思います。

紅葉の中で森林教室
〈徳島森林管理署〉

一月二〇日は、三好市の大川持農林業体験施設で、二四日には徳島市立内町小学校で、二八日に佐古児童館主催で森林教室を行いました。

山村資源を利用し自然の大切さを学ぶ大川持農林業体験施設では、児童と保護者を含め約二〇名が参加しました。始めに施設内で「自然の大切さ」をテーマに学習をしました。その後は、野外に出て木の枝を使った鉛筆作りを行いました。参加者は、それぞれ形の違う鉛筆に仕上がったことと、材料でを使用したミズメの綺麗な樹皮に満足した様子でした。

内町小学校では、児童

三七名を対象に行いました。室内で三〇分程、紅葉のしくみやどんぐりの見分け方などを学習しました。その後、徳島中央公園に移り、「秋の色探し」のネイチャーゲームを行いました。そして、木の実探しを行い、どんぐりを見分けました。少し肌寒い日ではありましたが、みんな興味を持った様子で「アラカシ見つけた。」と袋に木の実を拾っては入っていました。

佐古児童館では、佐古小学校の一室を借り、木の枝等を使ってカブトムシとクワガタムシ作りの木工工作をしました。細かな作業に慣れない児童もいましたが、約一二〇名がそれぞれ自分なりに作品を完成させ、友達と見せ合いながら持ち帰りました。



内町小学校寄せ書き

希少なゴヨウマツを
ニホンジカの
食害から守る
〈徳島森林管理署〉

一月三日(文化の日)、ボランティアの協力を得て、一の森(一、八七九㊦)から槍戸山(一、八二〇㊦)の間のゴヨウマツの保護活動を行いました。

今年の春、美馬市営「一の森ヒュッテ」管理人の内田さん(元国有林モニター)より、一の森周辺のゴヨウマツの樹皮が、「ニホンジカの食害を受けている」との通報を受けました。

当署では、このような深刻化するニホンジカの食害から剣山山系などに生育する希少な樹木を保護する活動を続けており、六月に現地調査を行いました。

このまま放置すれば樹齢数百年と思われるゴヨウマツが全滅する可能性が高い事がわかり、今回、NPO団体の「剣山クラブ」や「三嶺の自然を守る会」に呼びかけて、ゴヨウマツに樹木ガードを巻き付けました。

参加者は、これらのNPO団体のメンバーのほか、団体に所属していない一般のボランティアの方や、当日になって飛び入り参加された方もいて、当署の五名の職員を含めて、総勢三一名となりました。また、地元テレビ局や新聞社二社が取材に同行し、ニホンジカの食害対策に対するマスコミの関心の高さが伺われ

ました。

作業は三人一組となり、樹木ガードを樹木の根際から一・五mの高さまで巻き付け、結束バンドと鉄線ペグで固定するというものです。

霧氷や霜の残る寒い中、ササ原の急傾斜で、しかも樹形が変化に富んだゴヨウマツ相手の作業は困難を極めました。山や自然を愛する参加者の奮闘の結果、下山までに七〇本のゴヨウマツに樹木ガードを設置することができました。

ニホンジカの食害対策については、環境省や徳島県、市町村も対策に取り組んでおり、希少な樹木や自然環境を守り次世代に伝えるためにも、これからも連携し、NPOやボランティアの協力をいただきながら、ニホンジカの食害対策を実施して行きたいと考えています。

最後に、保護に使用した樹木ガード等の資材は、美馬市木屋平総合支所の職員の方々と内田さんのご協力により、山頂まで荷揚げを行うことができました。深く感謝申し上げます。



樹木ガードの巻き付け



一月一日、高松市立屋島東小学校の体育館において、三、四年生五六名を対象とした森林教室を実施しました。

森林教室は、屋島国有林

の「遊々の森 ドキドキわくわくコース」で行う予定でしたが、前日から降り続いた雨の影響で、急遽体育館での実施に変更しました。

まず最初に、数種類のどんぐりと、どんぐりのなる木の枝葉を班ごとに配り、それぞれのどんぐりや葉の形の違いを観察しました。児童たちは、「クヌギってこれ？」「これはコナラや！」と、それぞれの違いに目を丸くしていました。

次に、間伐材でできたお皿を一人一枚ずつ配り、そのお皿に絵を描きました。思い思いに描かれた絵は実に様々で、子供たちの個性がよく出ていました。

今回は、残念ながら「遊々の森」に行くことはできませんでしたが、どんぐりや間伐材に触れること等を通じて、森林や自然への理解

をさらに深めてもらえたらと考えています。



どんぐりの観察



一月六日に、「かがわ山の日」行事の一環として、三豊市山本町神田の「宝山湖」において、香川県主催の「第五回香川県植樹祭」が関係者並びに一般市民併せて二五〇名参加により盛大に開催されました。

冒頭、香川県知事から、特に雨の少ない香川県に

とつての「森林づくりの大切さ」「水のありがたさ」についての挨拶に続いて、宝山湖を管理している水資源機構局長からは、「香川用水」の成り立ちについての挨拶の後、香川森林管理事務所長も、関係者と共に県木である六本のオリブを丁寧に記念植樹しました。

記念植樹の後、地元財田中学生三名による「宝山湖みどりづくり」誓いのことばが力強く宣誓され、参加者全員による植樹が始まりました。樹種は、「クヌギ」「コナラ」「ヤマザクラ」「マテバシイ」の四種六〇本ですが、周囲が早く立派なみどりの山となり、「宝山湖」がまさに地域を潤す「宝の湖」となるよう全員が熱い願いを込め、それぞれを大切に植樹しました。



植樹の様子

つるで編むかごづくり
 〈香川森林管理事務所〉

一月九日、香川県屋島少年自然の家の野外集会場において、古高松南コミュニティセンター主催の「つるで編むかごづくり」が開催され、主に主婦層の方、約二〇名が参加しました。国有林内での活動もあることなどから、当所も毎年協力しています。

はじめに、当所職員が香川県内の国有林の紹介を行うとともに、林内作業の注

意点を説明しました。その後、材料のつる植物を採取するために屋島国有林に入りました。自分で採取したアケビやクズのつるでかごを編むため、どんなつるが必要になるかよく吟味しながら、一生懸命に採取していました。

次に、かごづくりに移り、最初の骨組み作りに手こずりながらも、一時間半ほどでかごを完成させ、中には二つ作っている人もいました。

主婦層の方は森林に接する機会が少なく、森林管理事務所との接点も少ないのですが、このようなイベントを通じて国有林をアピールしていくとともに、森林に関心を持つていただくきっかけ作りに取り組んでいく必要があると感じました。



つるかごづくり

紫雲中学校
 職場体験学習
 〈香川森林管理事務所〉

当所では、一月一〇日から一二日の三日間、高松市立紫雲中学校の職場体験学習の受け入れを行いました。

この職場体験学習は、中学生が職業について正しい知識を得るとともに、自分の進路について深く考え、正しい職業観を身につけるために行われているもので、当所では毎年二人から三人を受け入れています。

一日目は、所内で森林・林

業・国有林について学んだ後、峯山国有林でコンパス測量を行い、製図をしました。最初はコンパスの扱いに四苦八苦していましたが、すぐに慣れて使いこなしていました。

二日目は、平谷国有林で約二〇年生のヒノキ林の収穫調査を体験しました。初めて触る輪尺や木材チョークを使って、手際よく調査を行っていました。帰所後は、調査のとりまとめや間伐について学びました。

三日目は、鷹山国有林で行っている、ヘリコプター集材を見学しました。中学生は、チェーンソーやグラップル、フォワーダなど、初めて見る林業機械に興味津々でした。特に、ヘリコプター集材の見学では、二日目に見た二〇年生ヒノキよりはるかに大きい一〇〇年生のヒノキが、ヘリコプターで運ばれて来る

のを、興味深そうに何度も何度も眺めていました。樹齢一〇〇年という大きなヒノキを間近で見ると初めてだったようです。

香川県は森林が少なく、林業の仕事になじみがないのが現状で、中学生には目新しいものが多かったようです。今回の職場体験を通じて、あまり知らなかった林業の仕事のことだけではなく、仕事は楽しいばかりではないこと、それでもやりがいを持ってできることを、少しでも伝えられたのではと考えています。



コンパス測量

10 クリーンウォーク
in しおのえ
不法投棄撲滅
ふれあいクリーン作戦
〈香川森林管理事務所〉



一月二一日、高松市塩江町において、「10 クリーンウォーク in しおのえ（不法投棄撲滅ふれあいクリーン作戦）」が行われました。このクリーン作戦は、クリーン高松推進事業として、塩江町の三校区（安原・塩江・上西）衛生組合協議会が協同実施したもので、地域住民や一般市民ボランティア、行政関係者の約八〇〇名が参加しました。

当所は、大滝山自然休養林がある鷹山国有林を巡回し、不法投棄の監視やごみの回収を行いました。大滝山自然休養林は、高松市の水源となっている香東川の源流域に位置し、水源の森百選に選定され、また、大滝大川県立自然公園にも指

定されており、水源のかん養や保健休養の場として重要な地域となっています。ごみの不法投棄については、日常の巡視等を通じて、その防止に努めているところですが、心ない人々による不法投棄が後を絶たない現状です。当日も、空き缶や弁当の空のほか、テレビやタイヤ、廃油の入ったポリタンク等を回収しました。



回収したごみ

今後も、ごみの不法投棄を防止するため、地域や関係行政機関とも連携を図りながら、巡視や清掃活動等の保全管理を行っていきま

間伐体験
木を伐るのは難しい
〈嶺北森林管理署〉



一月一三日、工石山自然休養林で大豊町立大杉小学校四年生十名（教員二名）を対象に森林教室（間伐体験）を開催しました。

間伐作業を始める前に、間伐はどのような作業で、どうして間伐をするの？という質問を子ども達にする

と、「間引いて伐ること！」「木を大きく育てるため」など、学校で学んだことを元気に答えてくれました。

間伐は三班に分かれて行い、子ども達は使い慣れない鋸に戸惑いながらも、真剣な顔つきで木を伐り倒していました。その後、伐った木の太さや年輪を互いに比べ合い、同じ年に植えた木でも成長の度合いが違うことを実感した様子でした。

昼食後、小学校のグラウンドの土と腐葉土を入れた二つのペットボトルを使って、水の浸透力の違いを比べる実験を行いました。グラウンドの土は砂の粒が詰まっているため、あまり水を通さず土の上に溜まっていました。一方、腐葉土は隙間が多くジワジワと水を吸いながらボトルの底から少しずつ染み出てくる様子が観察できました。

下山後、子ども達の一人一人から森林教室の感想を聞くと、「ペットボトルの実験で森林の土の働きが分かった」、「木を伐るのは難しかったけど木が倒れたときは嬉しかった」などの声が返ってきました。

大杉小学校では、授業の中で間伐についての学習を行っています。子ども達は今回の森林教室を通して、より一層森林の働きについ

ての理解を深めることができたものと思います。

間伐の大切さを学習
〈高知中部森林管理署〉



一月二二日、香美市立大宮小学校五年生三二名を対象に森林教室を行いました。

まず、高知県の森林面積や、森林の持つ公益的機能について写真や絵を交えながら話しました。

その後、間伐作業の重要性について話をすすめ、間伐が行き届き、下層植生が



間伐体験



森林教室の様子

育っている森林モデルの土壌と、学校の運動場の土を比較し、森林の持つ水源かん養機能や土砂の流出防備機能を理解してもらったための実験などを行いました。子どもたちは、事前に国語の授業で「森林のおくりもの」という単元を学習しており、森林について大変興味があるようでした。香美市は森林率八七%を誇ります。この教室が子どもたちにとって森林をより身近に感じる機会となったことを実感し、教室を終えました。

ふれあいの森で
保育間伐
〈高知中部森林管理署〉

一〇月二三日、ヒカリ石国有林にある「物部川源流ふれあいの森」にて、「物部川二世の紀森と水の会」が募ったボランティア九名が保育間伐作業を行いました。

今回はJ A土佐香美青壮年部や南国市議会議員らが中心となり、農業にも必要不可欠な水について考え、香美市・南国市の水源となる物部の森を少しでも元気にしよう、流域の環境保全活動に、日頃から取り組まれている方々が参加されました。

現地は枝の張ったヒノキが多く、伐る木すべてがかかり木になる状態の中、フェリングレバーやロープを使いながら一本一本丁寧に倒していきましました。

作業終了後、参加者全員が間伐作業の感想を述べ、明るくなった林内を後にしました。



ふれあいの森にて

協働の森づくり事業
イベントに協力
〈高知中部森林管理署〉

一〇月一六日、香美市香北町東山市有林にて、「ルネサスフォレストランド二〇一〇」が開催されました。

今年で四年目となるこの催しは、香南市にあるルネサスエレクトロニクス(株)高知事業所と高知県が協働の森パートナーズ協定を締結し、森林の再生と地域の

交流を目的として行われており、参加者らは間伐作業を体験しました。

当署はプログラムの中間伐の重要性に関する話の外、木工クラブ作製コーナーを担当しました。大人が間伐をしている間、子どもたちは、木の枝を利用した当署手作りのキットでクワガタの置物を作りました。今年も二年ぶりに好天に恵まれ、暖かい日差しの中、間伐作業で心地よい汗を流した参加者らは満足そうな表情を浮かべていました。最後に笑顔で記念撮影し、無事イベントを終えました。



ルネサスフォレストランド





安芸森林管理署

野友森林事務所

首席森林官 後藤正美

野友森林事務所は、高知県東部の安芸郡北川村にあり、北川村、奈半利町、室戸市を所在する国有林、官行造林約二、〇〇〇畝を管理しています。

管内の名所としては、かつて土佐藩藩主が、参勤交代で通ったとされる「野根山街道」が約三五kmに渡って整備され、森林教室等に利用されています。

所員は、首席森林官一名、係員一名、基幹作業職員四名、臨時職員六名で業務を行っています。事務所は、野友安倉北川合同詰所として、三森林事務所が一つの事務所で業務を行っています。

す。首席森林官の業務としては、旧奈半利事務所管内の地元要請等に関する市町村等の窓口、森林教室等の実施、関係機関主催会議への出席、奈半利地区の安全衛生に関する業務等を行っています。

今回は、「現場第一線から」という題目に関連し、現在の現場の状況を報告します。以前、私が森林官として勤務していたのは、二〇年位前でした。当時、基幹作業職員の業務としては、造林事業主体で、地拵・植付・下刈・除伐作業等を、適期にあわせて計画し、実行していました。その外では、人力作業による、林道修繕を行うというような状況でした。

今回、久しぶりの森林事務所勤務となって、その変貌ぶりに驚いています。皆伐が減少していることにより、造林事業が減少し、基幹歩道整備を中心とした森林保全管理、バックホーレンタルによる林道事業、境界巡検を中心とする境界保全管理の割合が大幅に増えてきています。作業についても機械化され、林道については、刈払機、バックホーが導入され作業効率も格段に向上しています。自分たちの管理する国有林を、自分たちの手で整備するため、作業が早期に効率よく行うことができています。このことにより、国有林の管理は、大変、風通しが良く、色々な事案に柔軟に対応できています。

反面、大きな問題点としては、二〇年位前は、ほとんど見受けられなかったのですが、ニホンジカの被害

があります。皆伐後、新植しても、ニホンジカの被害を受ける箇所が大変多く見受けられます。ニホンジカの被害を受け改植した箇所が健全な更新ができていないのか、様子を見守っている箇所もあります。現在、新植した箇所については、防護網等により対策を行い、定期的に巡視を行い、修繕を行っています。これらの対策が、効果を発揮し、健全な更新ができることを期待している状況です。今後、ニホンジカの被害をどのように防止して更新していくのが、これからの課題だと考えます。

現在、地球温暖化対策として、森林に対する期待の高まりが報じられています。そういう期待へ答えられるよう、森林官として、上記の課題を克服し、健全な山作り而努力し、安全で明るい職場作りを、目指してい



林道修繕



野根山街道の宿屋スギ



シカ防護ネット柵

きたいと考えています。